

令和5年1月16日

令和4年度 中信地区学校図書館教育研究大会の実施報告(塩筑支部)

塩筑支部代表 生坂村立生坂中学校 青森 隆俊

- 1 研究テーマ 「自ら学び、豊かな心を育てる図書館教育はどうあったらよいか」
- 2 主催 長野県図書館協会 同協会小・中学校図書館部会
- 3 日時 令和4年10月14日(金) 12:45～15:05
- 4 会場 生坂村立生坂小学校 生坂村立生坂中学校
- 5 後援 長野県教育委員会・生坂村教育委員会・塩筑校長会・塩筑教育会
- 6 日程

内容	場所	生坂小学校	生坂中学校
受付		12:45～13:05	12:45～13:05
公開授業		13:10～13:55	13:10～14:00
授業研究会		14:05～14:50	14:10～14:55
会場校校長挨拶 及びお礼		14:50～15:00	14:55～15:05
		各会場にて解散	

7 公開授業・授業研究会

小・中	授業 学年	教科・領域名	単元名	授業者	指導者	司会者	研究会場
生坂 小学校	5年	特別活動 (国語)	生坂小図書館 パワーアップ 大作戦	柳澤志濃 教諭	武田昌之 総合教育セン ター専門主事	召田和美 教頭	生坂小 ランチル ーム
生坂 中学校	1年	国語	『この本』の 価値を再発見	上條示雄 教諭	三石啓介 中信教育事務 所指導主事	矢沢剛 教頭	生坂中 多目的室

8 講演

演題: 「GIGAスクール時代の学校図書館～電子図書館の取組と連携事例のご紹介～」
講師: 森 いつみ 氏(県立長野図書館 館長)

9 参加者

小学校 24名 中学校 17名 計 41名

10 反省等

(1)授業について

【小学校】

もともと本が好きな5年生児童たちは、より多くの友だちに本の楽しさを知ってもらい、図書館をより魅力的な場所にしたいという願いをもって、それを具現化するためのアイデアを考える学習を行っ



た。本学習の特徴は、国語科の「話し合い」単元と、特別活動「図書館パワーアップ大作戦」とを、教科横断的に展開した点である。子どもたちは課題を自分事としてとらえ、思考ツールである「クラゲチャート」を活用して、自分の意見と友だちの意見を繋ぎ合いながら、考えを広げていくことができた。話し合いによって決定したアイデアは特活の時間を使って形にし、子どもたちのアイデアが反映された図書館はより活気のあるものとなった。「願いが具現化される経験」は児童にとって大変有意義な学習となり、その後の様々な活動・学習面で活かされている。

【中学校】

16冊の「さるかにがっせん」の絵本の中から3冊を選び、グループに分かれて読み比べた。各社の絵本のテーマを一言で表すと「友情」「正義」「欲望」のうちそれぞれどれであるかを考え、「そう言える理由」と「言えない理由」を書き出して話し合った。叙述を根拠に自分の考えを説明したり、仲間の考えを聞いたりする中で、絵本によって同じ物語でも内容が違い、内容の違いによってテーマや主題、作者のねらいなども異なることに気づき、読書への興味を深めていった。



(2) 講演会について

講師のご都合で当日の講演が中止となったが、後日、オンラインで講演動画を配信した。「GIGAスクール構想と学校図書館に関する動向」、「長野県内の公共図書館による電子図書館の取組」、「地域で取り組む図書館サービスの可能性」という視点から、学校図書館、公立図書館が連携し、デジタル化されていく図書館の利便性や有効性を活かしながら、子どもや地域の方の生涯の学びを支えていく大切さを教えていただいた。講演動画は、森館長のご厚意で、参加者だけでなく中信地区全校に配信することができた。

(3) 運営等について

- ・講演会がなくなったことから、一つの会場に集まる必要がなくなったので、開会行事、閉会行事を縮小して小中各校で行った。県小中部会副会長に挨拶を依頼していたが、会場校校長が代わりに行った。
- ・研究推進費を各校にいただきありがたかった。
- ・コロナ禍の中であったが、参集して公開授業や各校の実践について語り合えたことは、非常に貴重な研修機会だった。しかし、1回目の案内では参加者が集まらず、各支部に参加の呼びかけを依頼した。コロナ感染の心配や遠距離による参加のしにくさがあったと思われるので、オンラインやハイブリットでの開催の可能性も探りながら、大会の開催方法について検討が必要である。
- ・昨年度の大会開催支部(大北支部)からファイルをいただいたり、様子をお聞きしたりして準備を進めた。大変参考になりありがたかった。

令和4年1月16日

中信地区学校図書館教育研究大会 会計報告

塩筑支部代表 青森 隆俊

1 収入の部

県図書館協会よりブロック大会補助 50,000円

2 支出の部

① 講師謝礼 10,000円

② 研究費補助(20,000円×2校) 40,000円

合計 50,000円

3 残額

0円